

# ふじさき歯科 デンタルニュース

2012年 No.20



「長がはなび、  
開業三十冊」

『光陰矢の如し』という言葉がありますが、時の過ぎ行くのは本当に早いものです。昭和五十八年に産声を上げた当院も、皆様のお陰をもちまして三十歳となりました。感謝の気持ちでいっぱいです。その間、沢山の変化を目の当たりに見てきました。地域の景観、日本の世相、医療の進歩、人々のライフスタイルなど、当時の私たちからは想像も出来なかった社会となりました。三十年、いわゆる一世代といわれる期間の変遷とすれば当然のことと思われまます。

私も還暦を過ぎて既に数年、同じ年頃の友人たちも退職したり、事業の後継者に引き継いだり、悠々自適の人生を歩み始めている者も少なくありません。私自身もいつまで今のようにな身も心も元気で働けるのだろうかと思っております。

これからは皆様に培っていただいたこの病院を、この先の時代にどのようにつなぐか、この先の時代が私の務めとなりましよう。

いったい次の十年、二十年、三十年先の未来、歯科医療はどのようなことになっているのでしょうか。

例えばこの先、高齢者の方が益々増えてきます。その治療は虫歯の治療よりも歯周病の方が増えてくるのでしょうか。歯を喪失してしまう患者様も増えることでしょうか。無くなった部分の修復は、入れ歯よりもインプラントが多くなるのでしょうか。歯を削って詰めるといふような方法は無くなるのでしょうか。治療よりも予防が主流となるのでしょうか。などなど、考えているときりがありません。

これからの未来に向かって私が気を付けたいと思っていることは、思考が停止しないようにと常に努力することです。思考というのは、人間が一つのことを成し遂げようとする時、その目標に至る道筋、方法を見つけようとして働く精神活

動だそうです。

しかしながら、どのような時代が来ようとも私たちの診療理念、

私たちの仕事は「信頼」により成り立ち

信頼は「思いやり」と「技術」から生まれる。

という考えは生き続けることを信じております。

歯学博士 藤崎真人

